

2024 年度 放送番組審議会 議事録

(株式会社ジェイコム九州 福岡局)

日 時 : 2025 年 3 月 13 日 (木) 11 : 00 ~ 12 : 30

場 所 : 株式会社ジェイコム九州 福岡局 会議室

委 員 : 放送番組審議会委員 7 名中 5 名出席(敬称略、順不同)

(会長) 石井 幸孝

(委員) 圓尾 容子、川崎 和夫、古瀬 恵、大穂 哲也

事務局 : 株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長

上村 忠

常務取締役 福岡局長

海面 正人

取締役

宮島 哲瑞

地域コミュニケーション統括部

統括部長

上妻 栄太

JCOM 株式会社 J:COM プロダクション本部 映像制作第一部

リージョナルマネジャー 篠原 有

九州制作グループ福岡拠点長 牧 幸生

九州制作グループ

椎野 康之

1. 開会事務局挨拶

株式会社ジェイコム九州 代表取締役社長 上村 忠

2. 議事進行(石井会長)

委員 7 名中 5 名出席につき、放送番組審議会規程第 4 条に基づき当会は成立。
年に 1 回の審議会ですが、本日も忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

3. 放送番組内容について

- 1) 2024 年度 自主制作番組 制作方針
- 2) 2024 年度 自主制作番組 実績報告

4. 審議

- 1) 自主制作番組 ダイジェスト視聴
- 2) 番組視聴後 審議・意見交換

委員)

良い番組を制作しているので、更に多くの方に見てもらうため、取材先等で番組を PR する目的で2次利用できるよう、条件等を検討してはどうか。

委員)

昨年度の放送番組審議会の際にテロップの必要性を伝えたところ、取材イベントの概要をまとめたテロップが画面表示されており、とても分かりやすかった。

「ぎ QCLASS」や行政番組「ふくおかまい COM」などでは、対象となる部署や校区の特性がしっかり打ち出されていた。

委員)

SNS が発達したことで、確証の無い情報が飛び交う怖さがある。

その中で真実を伝えていくメディアとしての姿勢含め、他メディアが取り扱わないニュースを拾っていく J:COM は素晴らしいと思う。自分に関係することがニュースでピックアップされると当人やその関係者は確実に見るので、そういう人たちを増やしていけば良いと思う。

(番組で取り上げた) 犬と同伴して出勤できる会社のニュースや、女性の健康に関連した問題など、テーマ性を持たせたニュースはシリーズ化していくと良いかもしれない。

委員)

昨年度の放送番組審議会の際に伝えた意見やアイデアを取り入れるスピード感が増している。

テレビ離れへの対応については、メディアとしての信頼度とリンクしてくる部分なので、正確な情報を伝えることが大事。そのためには、進む方向性や目的を定めて、企業価値を上げることを考えてみると良いのではないかな。

委員)

委員の多くが制作した番組を自治体やコミュニティでもっと活用してもらうことが、J:COM の企業価値向上に繋がると考えているようですね。

事務局)

J:COM では、狭域の内容にこだわり伝えていくべきだと考えている。

地域の人たちが伝えたい内容を発信できる場所、市民が出る番組を作っていきたい。

「ぎ QCLASS」では、民放ではなかなか取り上げないような行政が伝えたいことを紹介している。これも市民のために続けていきたい。

放送だけでなく、地域の回覧板を電子化する「回覧ポータル」、YouTube などのアーカイブ発信など、新たな手法を取り入れながらも、現状行っているように利益追求の発信ではなく、一貫性をもって市民の利益を考えた情報発信をしていきたい。

5. 審議

1) 審議対象番組 「ジモトトピックス」ダイジェスト視聴

2) 番組視聴後 審議・意見交換

委員)

ニュース取材は、事前にイベントを調べて申し込んでいると思うし、番組の中でも募集をしているが、もっと違う形で地域情報を収集できれば、さらに面白いニュースやイベントが見つかると思う。

委員)

ニュース構成の中で必ず地元の方にインタビューをされていることで、作り手側の意図だけでなく、深みに繋がっている。「出る番組」と言っていたように、一緒に作り上げていく感じがある。個人情報等が大変と思うが、引き続きインタビューは続けてほしい。

委員)

取材した街の人たちは視聴してくれる。すべての視聴者に発信するのではなく、限られた人に対してインパクトある内容を厳選できている。取り上げられた人や団体などは、J:COM のサービスに加入する確率が高くなると思う。これは強みだと思う。

委員)

番組がブラッシュアップされているから、もっと多くの人に見てほしい。魅力が伝わっていないのがもったいない。他メディアのようにイベント取材というよりも、地域を知るという密着型で作っているのが浸透してほしい。

長年やっていると飽きが出てくるので、どこかのタイミングで、またブラッシュアップして視聴者を飽きさせない仕組みが今後の課題として必要。

委員)

NHK や民放にないものを取り上げようと努力しているのは分かるが、もう少し深掘りした話などが入っていると良い。今後の課題としては、J:COM の番組をもっとプロモーションすることが大事な要素だと思う。大勢の人が「J:COM を見た」「J:COM でやっていた」と言ってもらえるようなプロモーションが必要。そうなるためには、まだまだ課題は多い。ほっとするようなテーマが日常にあり、市民生活を支えていると思う。民放とは違った戦略で、そういう情報を取り上げるのが J:COM の役割だと感じる。

事務局)

プロモーションは課題。デジタル面の活用も大事だが、SNS で単に発信しても簡単にはテレビ視聴には繋がらない。「出るテレビ」と掲げている以上、多くの方と接触し、しっかり向き合っていくという地道な活動が必要だと感じている。また、ネット上の情報に惑わされた誤情報の発信は絶対にあってはいけないので、確証を基に正しい情報を伝え、それが一方的にならないように、取材される側の気持ちも考えながら、しっかり関係性を作らないと正しい放送はできない。より良い番組にしていくためにも、審議会の席上だけでなくご指摘や情報などありましたら、ご連絡いただきたい。

6. 閉会挨拶 (株式会社ジェイコム九州 常務取締役 福岡局局长 海面 正人)

本日はありがとうございました。

頂いた意見を参考に、地域の皆さまに応援される番組作りをしていきたいと思います。

以上、閉会